



日本木工機械協同組合（原口博光理事長）は今年10月16（木）～18日（土）に開催する2014 TOKYO国際木工機械見本市／グリーン産業フェアに向け出展者募集を開始した。名称をマイナーチェンジした今回は森林・木材を主役にした展示企画と、出展者の負担軽減を打ち出しているのが特徴。グリーン産業の重要な一翼をなす木材加工機械の存在感を訴えとともに、往路運搬費用の主催者負担が積極的な出展につながることを期待している。

TOKYO国際木工機械見本市／

木と一環の持続、成長めざす 日本木工機械協同組合 2014 TOKYO国際木工機械見本市 グリーン産業フェア 出展募集中 往路の機械運送費を負担

グリーン産業フェアは1953年（昭和28年）に開催した優良製材木工機械展を発祥とする木材加工機械の専門見本市で、森林・木材資源を活用する機械加工技術の広範にわたる普及拡大を目的として2年に一度、定期開催してきた。東京ビッグサイトで最初に開催した見本市となった東京国際木工機械展（1996年）は2012年に東京国際木工機械展／グリーン産業展と名称を改め、木材加工企業を出展者に加え、森林・木材を資源とする事業活動が一体の産業として持続していく方向性を打ち出した。通算40回目にあたる今回は更にTOKYO国際木工機械見本市／グリーン産業フェアと改称。多様な専門業が木材活用を軸に出会う祝祭的な産

業空間を表現した。

今回のTOKYO国際木工機械見本市／グリーン産業フェアでは2012年の方向性を拡張して産学官連携の深化を模索するとともに、出展の負担軽減に最大限の努力を払った開催企画となっている。

展示計画の全体像は前回と同様、日本木工機械協同組合がまとめ役となって活動しているグリーンサーキットの考え方をベースに今回は更に内容を進化、木材の活用が椅子になり、テーブルになり、筆筒になり、建物になり、森林の機能を拡大する生活空間を作り出す仕組みを表現して、木材活用拡大の必要性を訴え、確認するイベントとする。

従来実施してきた来場者の投票に基づく出品物の人気コンテストに加え、今回は関係学界の専門家を評議

